第２回周南市地域とともにある学校づくり推進協議会

みだしの協議会に出席したため、下記のとおり報告いたします。

開催日時：令和７年２月２７日（木）　１５：００～１６：３０
開催場所：周南市役所本庁舎１階　多目的室
主 催 者：周南市教育委員会　学校教育課
参 加 者：周南公立大学地域共創センター副センター長、小・中学校長会長、公立学校教頭会代表、学校運営協議会会長、市ＰＴＡ連合会代表、地域学校協働活動推進員代表、地域連携担当教職員研修会企画委員会代表、周南市役所関係各課担当者

１　開会行事
主催者あいさつ（周南市教育委員会学校教育課課長）
～課長あいさつ～

２　学校教育課所管説明
今年度の取組
・　「子どもが参集（いあわす）・参与（かかわる）だけでなく、参画（にないあう）までできているか」という課題から、第１回目の協議会でアクションプランを見直した。
・　今年度、アクションプランを達成するような取組事例（中学生が主体的に参画した活動など）を、４事例紹介。
・　各種研修会の開催について
地域連携担当教職員研修会（年３回）
・　行政担当者会議
・　アンケート結果について

３　グループ協議・発表
【協議題】（どの事例を選ぶかは、各グループに委ねる）
・　２で紹介された「アクションプランを達成するような取組事例」について、それぞれの立場から、どういうところが優れているのか
・　４つの事例を参考に、もし自分の校区・地域なら、どうやって展開できそうか
【発表】
・　アクションプランを達成するような活動が増えてきたが、主語に改めて注目すると、「一部」の参加は達成できたと思うが、「全て」の児童生徒、教職員、地域・保護者となるとクエスチョンである。特に、保護者の参加が今後の大きな課題の一つになる。
・　児童生徒が参加する熟議等で良いアイディアが出て、学校運営協議会を利用することで、大人の力も借りながら、生徒主体で達成できるような仕組みができてきた。
・　小学生の「参画」という形は、中学生と違ってくるのではないか。もう少し大人の力を借りた形で経験し、それを中学生で生かすような形になるのではないか。

・　保護者の参加が一部となっているので、これからの課題と感じた。
・　小・中学生の思い出はいつまでも残っている。地域との温かい思い出や関わりが、将来周南市に帰ってきたいという気持ちに繋がる。中学生主体の楽しい企画で地域と中学生が繋がることができたら良い。

４　講評：徳山エリアＣＳチーフ　長谷川　敬　様
・　本会議の様子や事例紹介から、周南市の地域連携教育の取り組みが成熟してきていることが伺えた。
・　「学校と地域の歯車が合ったとき、子どもの成長を感じた」という言葉印象的だった。子どもが主体となって大人を巻き込むことで参画と言える。
・　先月県で開催の再加速フォーラムでの講演会の中でも、「子どもの語る姿が人を動かす。関わりが地域を作る。この力は偉大である。人と人が豊かに関わり、豊かにつながることが大切である。」とあったが、まさにそれが実現されてきている。
・　下松市の事例だが、地域の行事に小学生の企画で「肩たたきブース」を作り、子どもたちと地域住民が温かく繋がった。このような繋がりも含め、いろいろな繋がりが広がっていき、地域全体のウェルビーイングに繋がるのではないか。全員の参加は難しいと思うが、ネットワークを広げ、深め、更なる活動の充実に取り組んでもらいたい。

５　閉会行事
周南市地域とともにある学校づくり推進協議会長あいさつ
～周南公立大学　地域共創センター　副センター長　立部　文崇　様～
・　協議の中で「学校の敷居が低くなったよね」という話があった。これまでの活動の成果が現れている結果。
・　「地域の活性化」と「教育力の向上」を同時に捉えることが可能であるか、と考えると、「ネットワークの可視化」をしておく必要がある。活動に参加する人がどのように繋がり、どのような役割を担っているか、可視化することにより捉えておきたい。
・　子どもが地域の人から昔遊びを習って遊ぶということがあるが、子どもの遊びに大人が付き合うのも、「こどもまんなか」という考えからも良いのではないだろうか。

６　次年度について
・　令和７年度も年２回開催予定。
・　委員の皆さんには改めてお知らせする。